



学校だより

令和 2年 1月 8日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標: 元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.503

自分の新しい人生が始まった

校長 谷田 弘子

あけまして
おめでとうございます

今年もよろしくお願いいたします

新しい年、令和2年が始まりました。今年
は4月から、新しい学習指導要領での授業が
完全実施されます。夏には、東京オリンピッ
ク・パラリンピックが開催されます。秋には、
本校の「開校50周年記念式典・祝賀会」が
行われます。目まぐるしい毎日となること
でしょう。児童にとって思い出に残る1年
であるように、教職員一同努力してまいり
ますので、今年もご協力をお願いいたし
ます。

さて、今回は、今から約60年ほど前に、
アメリカであった実際のお話を紹介します。
アメリカのデトロイトという町のある小学
校での出来事です。一人の女性の先生が理
科の実験をしていました。実験ではネズミ
を使っていたのですが、実験の最中にその
ネズミが逃げ出してしまいました。

女の子たちは悲鳴をあげ、教室の中はま
さにパニック状態になってしまいました。男
の子たちは、ネズミを捕まえようとして教
室中を探し回りました。しかし、誰一人ネ
ズミを捕まえるどころか見つけ出すこと
すらできませんでした。そのような中、
その女性の先生が叫びました。「みんな！
静かにして！私に考えがあるの！」教室
はシーンと静まりかえりました。先生は、
「ここはモリス君に頼みましょうね、モ
リス君できるでしょう？」と一人の男の
子にネズミを探すように頼んだのです。
実は、このモリス君は視覚に障害があり、
目が殆ど見えないのです。そのため彼は、
とても強い劣等感をもっていました。自信の

かけらさえ失いかけていたのです。先生は、
「さあ、モリス君、お願い、みつけて！」と
言いました。クラスメートは、その時、「先
生はなぜ、モリス君にネズミを探すように
頼んだのだろう？」とあきれ返ったそう
です。

ではなぜ、この先生はモリス君にネズミ
を探すように頼んだのでしょうか。先生は、
彼の目は不自由であるが、その代わりにす
ばらしい聴力をもっていることを知ってい
たのです。モリス君は自分の聴力を頼りに
ネズミの居場所を探し出し、みごとに捕ま
えたのです。モリス君にとって、自分の能
力を「すばらしい」と認められた初めての
経験でした。そして、それを生かした初め
ての成功体験でもあったのです。

後日、彼は次のように言っています。「ま
さにそのとき、先生が自分の能力を認めて
くれたその時に、自分の人生が始まった！」
この後、彼は天性ともいえるこのすばら
しい聴力と絶対音感を駆使して、数々の
ヒット曲を作り出しました。そして、スー
パースターとなりました。

人間は誰もがすばらしいところをもっ
ています。高学年の児童の中には、「自信
がない、良さなんかない」と言う子を時
々見かけます。本当ですか。よく探して
ください。人間は誰でもその人の良さ
があるはずで、誰よりもやさしさをも
っている人、モノづくりが得意な人、
文字が美しく書ける人、絵が上手にか
ける人、歌が上手な人、モリス君のよ
うに聴力がすばらしい人などなど、人
それぞれによさがあるのです。親子で、
良さを見つけて、良さを生かせる場を
作っていきましょう。そうすれば、人
生がより輝かしいものになります。
学校では、そのお手伝いをしていき
たいと常に考えています。今年は『自
分探しの一年』にしましょう。

